

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限（設定日：2014年12月29日）	
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に以下の運用を行います。	
主要運用対象	コモンズ30+しずぎんファンド	「コモンズ30マザーファンド」（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。また、株式会社しずおかフィナンシャルグループの発行する普通株式に直接投資します。その他、国内外の株式等に直接投資する場合があります。
	コモンズ30マザーファンド	国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	コモンズ30+しずぎんファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
	コモンズ30マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	<p>毎決算時（原則として毎年12月18日（休日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲 経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配対象収益についての分配方針 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により、収益分配を行わないこともあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>③留保益の運用方針 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p> <p>*当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、所得税および地方税を控除した金額を当ファンドの受益権の取得申込金として、お客さま（受益者）の当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込みに応じるものとします。</p>	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

運用報告書（全体版）

コモンズ30+しずぎんファンド

第11期（決算日：2025年12月18日）

◆受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「コモンズ30+しずぎんファンド」は、このたび、第11期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

 **コモンズ投信株式会社**
commons
asset management, inc.

東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル16階
<https://www.common30.jp>

◆お問合せ先

コールセンター：TEL. **03-5860-5706**

受付時間 10：00～16：00（土日祝日、年末年始を除く）

皆さまのおかげをもちまして、『コモンズ30+しずぎんファンド』の第11期の決算を迎えることができました。改めて役職員一同、心から感謝申し上げます。

2025年の世界経済は、欧米における利下げサイクルの定着と、实体经济へのAI実装による生産性向上を原動力に、力強い成長を遂げた一年となりました。米国市場ではインフレの鎮静化に伴うソフトランディングも見えてきました。世界の主要株価指数が過去最高値を更新して世界的なリスクオンの地合いが続きました。

こうした追い風を受け、国内株式市場も好調でした。コーポレートガバナンス改革の深化による資本効率の向上に加え、長らく続いたデフレからの完全脱却を背景に、国内外の投資家による日本株の再評価が加速しました。その結果、日経平均株価は史上最高値を更新し続け、ついに5万円の大台をも突破しました。企業の過去最高益更新や積極的な株主還元が下支えとなり、国内市場は新たなステージへと進んだと考えています。

また、当ファンドの組入銘柄である「しずおかFG」は、利ザヤの改善と地域密着の質の高いコンサルティング機能を強みに、過去最高益を更新し、株価も2,000円台へと大きく水準を切り上げました。2025年は地方銀行株の躍進が注目されましたが、同社は地域経済への貢献と資本効率の改善を両立させる先駆的な事例となりました。

株式市場が活況を呈する一方で、物価上昇が経済の常態となる「インフレの世界」が到来しています。2025年は、NISA制度の浸透とともに、自らの資産を自ら守り育てる「資産形成」の重要性を誰もが実感する一年となりました。インフレ環境下では、現預金のみで資産を保有することは、物価上昇に対して購買力が低下するという実質的な資産減のリスクを伴います。

投資の本質は、目先の変動に一喜一憂することではなく、経済の成長力を信じて長期的に資産を配分し続けることにあります。日経平均株価5万円という水準は、あくまで通過点に過ぎません。企業価値の向上に伴う株価上昇の波を捉え続けることで、個人の資産を長期的に積み上げていく重要性は、かつてないほど高まっています。

私たちは、プロフェッショナルとして緻密な規律に基づいた運用を行い、皆さまの資産形成のパートナーとして、さらなる高みを目指して邁進する所存です。今後とも、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長兼最高運用責任者
伊井哲朗

目次

実績

- 最近5期の運用実績…………… 1
- 当期中の基準価額と市況等の推移…………… 1

概況

- 運用経過…………… 2
- 分配金について…………… 12
- 今後の運用方針…………… 13

詳細

- 1万口当たりの費用明細…………… 14
- 売買および取引の状況…………… 16
- 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合…………… 16
- 主要な売買銘柄…………… 16
- 利害関係人との取引状況等…………… 17
- 組入資産の明細…………… 17
- 投資信託財産の構成…………… 17
- 資産、負債、元本および基準価額の状況…………… 18
- 損益の状況…………… 18
- お知らせ…………… 18

ご参考

- コモンズ30マザーファンド…………… 19

●最近5期の運用実績

決 算 期	基準価額 (分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	株 式 組入比率	純資産 総 額
7期(2021年12月20日)	16,907	0	13.9	97.4	1,023
8期(2022年12月19日)	16,833	0	△ 0.4	93.7	1,142
9期(2023年12月18日)	20,031	0	19.0	96.9	1,617
10期(2024年12月18日)	21,939	0	9.5	96.7	1,684
11期(2025年12月18日)	25,569	0	16.5	96.2	1,791

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質組入比率を記載しております。以下、同じです。

(注) 基準価額は1万円当たりで表記しています。

(注) 当ファンドは、特定の市場指数を上回る投資成果を目指すものではなく、個別の投資銘柄の特性を重視した運用を行うため、ベンチマークは設定しておりません。また、既存の株価指数等の参考指数は、当ファンドのポートフォリオの銘柄構成や運用戦略と大きく異なるため、これらと比較表示することにより、投資家の皆様に当ファンドの運用実態について誤解を与える恐れがあることから、併記を控えております。

●当期中の基準価額と市況等の推移

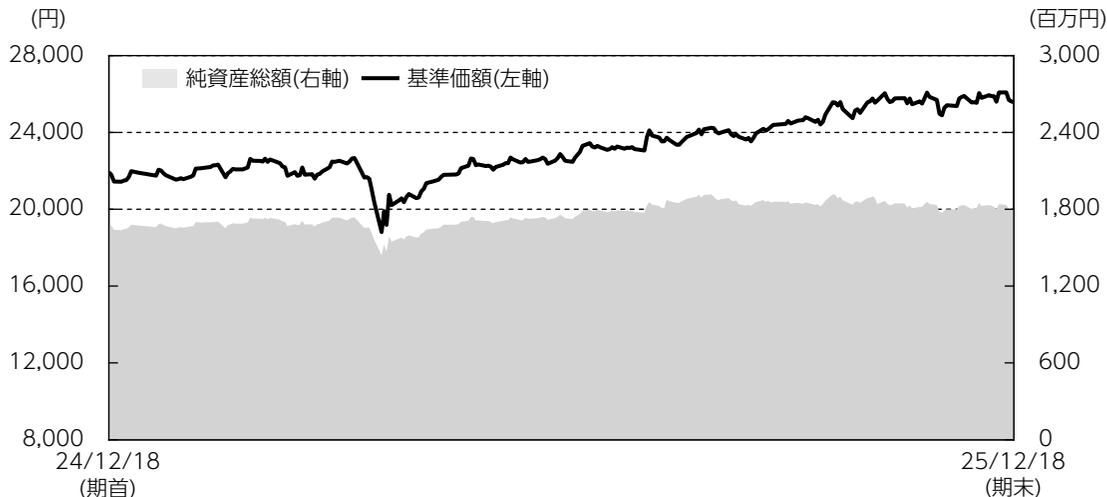
年 月 日	基準価額	騰落率	株 式 組入比率
(期 首) 2024年12月18日	21,939	—	96.7
12月末	21,903	△ 0.2	97.4
2025年 1 月末	22,329	1.8	97.3
2 月末	21,744	△ 0.9	96.8
3 月末	21,654	△ 1.3	95.2
4 月末	21,546	△ 1.8	90.5
5 月末	22,600	3.0	89.5
6 月末	23,444	6.9	92.8
7 月末	23,732	8.2	94.2
8 月末	23,775	8.4	96.4
9 月末	24,659	12.4	95.8
10月末	25,782	17.5	95.0
11月末	25,899	18.1	95.6
(期 末) 2025年12月18日	25,569	16.5	96.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

運用経過

■基準価額等の推移について

(2024年12月19日～2025年12月18日)



第11期首：21,939円

第11期末：25,569円 (既払分配金0円)

騰落率：16.5%

(注) 当ファンドは設定日より本期末まで分配が行われていないため、分配金再投資基準価額は表示していません。

(注) ファンドの購入価額により課税条件が異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

■基準価額の主な変動要因

基準価額は期首に比べ16.5%の上昇となりました。

なお、詳細については、後掲「投資環境および運用経過について」にてご説明します。

■当該投資信託の特色とポートフォリオについて

『世界の成長を取り込める優れた企業と地域金融機関を組み合わせ、長期投資を通じて豊かな生活と地域社会への貢献を目指します。』

環境の変化が激しく、グローバルな競争が厳しい時代を乗り越えられる企業を中心に約30社へ投資する「コモンズ30マザーファンド」を通して世界の成長を取り込み、さらに地域の金融機関であるしずおかフィナンシャルグループ株式会社へも投資します。こうした未来志向な地域金融の実現を「コモンズ30+しずぎんファンド」は目指しています。

1. 長期的な視点で優れた企業30社程度に集中投資を行う「コモンズ30マザーファンド」へ投資します

I. 長期的な目線でこそ、超優良企業の本質的な価値が分かると考えています

近年、景気サイクルは短期化し、株式市場の振幅も増大する傾向にあります。こうした先行き不透明な時代において、株価を追い続けてリターンを積み上げることは困難です。一方で、こうした時代でも、時代の変化に対応し進化し続ける一握りの超優良な強い企業は存在します。コモンズ投信は、足元の業績や株価の変化にとらわれず、独自の長期財務データの分析に加え、経営者のリーダーシップ、ビジネスモデルの競争優位性、ガバナンス、企業理念など長期の進化に必要な「見えない価値」を徹底調査することで銘柄選択を行います。

長期的な目線でこそ、超優良企業の本質的な価値が分かると考えています。

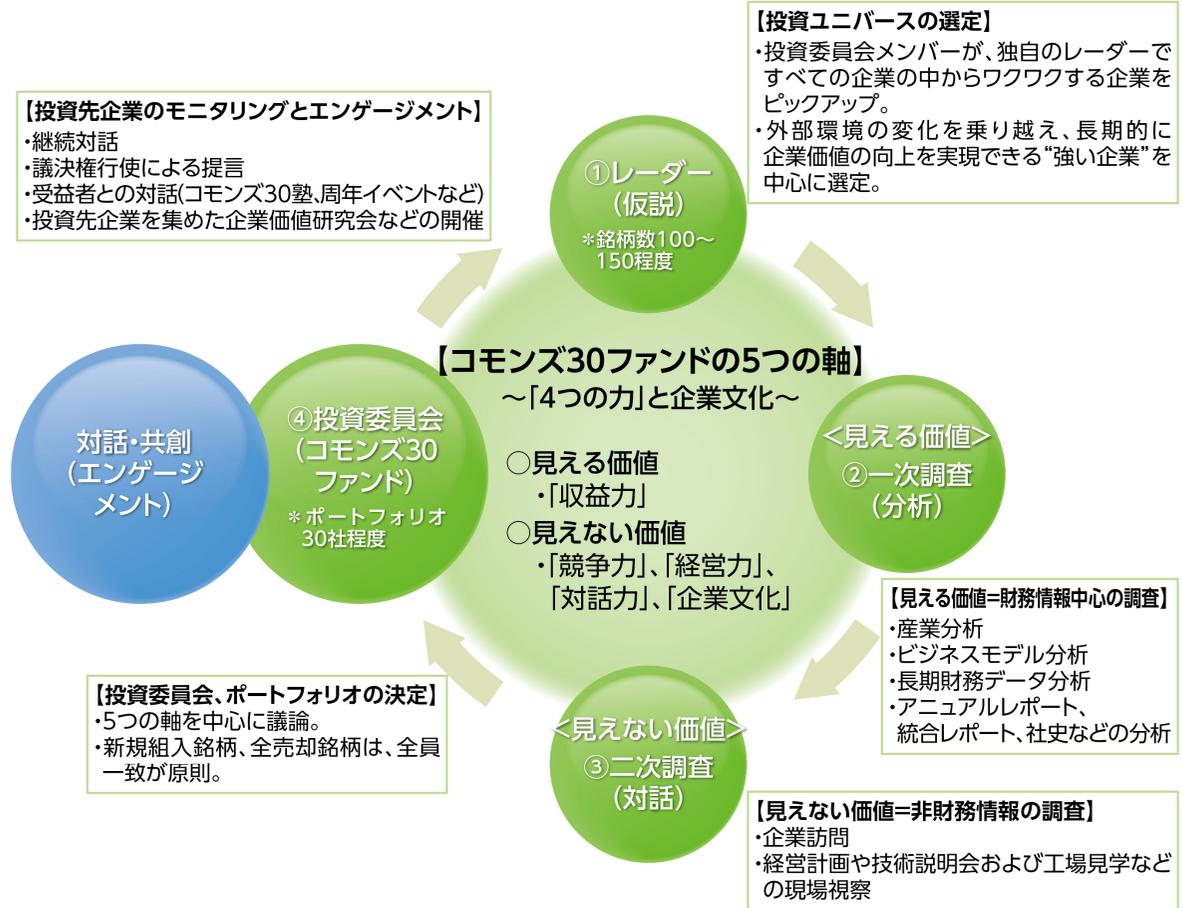
II. 厳選銘柄で高い運用成果を狙います

環境の変化が激しく、グローバルな競争が厳しい時代では、企業の優勝劣敗も進展します。こうした環境下で、多くの企業に投資をすることは日本経済全体の成長を買うことにもつながり高い成果は望めないと考えます。コモンズ30マザーファンドでは、約3,900社の上場企業の中から、長期的に成長可能と判断した、わずか1%未満に相当する30社程度に投資をすることで、高い運用成果を目指しています。

III. コモンズ投信は、「対話」を大切にしています

コモンズ投信では、お客さまと投資先企業の交流セミナーにも積極的に取り組んでいます。お客さまには、ご自身の資産の投資先と対話ができることで安心感と同時に企業を応援する楽しさを感じていただき、企業には消費者でもあるお客さまとの対話で企業価値の創造につなげていただくことを期待しています。

■マザーファンドにおける投資対象選定のプロセス



■投資先企業の評価基準

コモンズ投信は企業の長期的な持続的成長を評価するには「見えない価値」が重要と考えています。目に見える財務情報だけでなく、企業文化や経営力やステークホルダーとの対話など、“見えない価値”にも着目し、投資先の企業を厳選します。具体的には「5つの軸」(4つの力と企業文化)によって投資先企業を選定、評価しています。

【見える価値】

「収益力」

営業利益率、ROEなどの財務的価値に優れ、長期的な成長または安定が見込まれる。配当などの資本政策が明確である。

【見えない価値】 = 非財務情報

「競争力」

競争力の源泉を理解し、その強さを支えるビジネスモデルを磨き続けている。技術やサービスの開発、市場の開拓にも積極的に取り組んでいる。

「経営力」

経営トップが長期的な企業価値向上に対する意識が高く、それを支える持続的な経営体制の高度化に取り組み、社外取締役、株主など外部からの知見も経営に反映している。

「対話力」

顧客、社員、取引先、株主、社会などステークホルダーとの対話姿勢を重視している。対話を通じた持続的な価値創造に取り組んでいる。

「企業文化」

明確に定義された企業理念・価値観を組織内に共有し、浸透させることで具体的な行動に結び付けている。企業文化が、組織横断的な横串となり組織力を高めている。

2. しずおかフィナンシャルグループの株式に10%を上限に投資をします

地域に密着したしずおかフィナンシャルグループの株式に当ファンドの純資産総額の10%を上限に高位に組み入れを行うことを基本とします。（当ファンドの目的は長期的な信託財産の成長を図ることを目的とし、しずおかフィナンシャルグループ株式への投資についてはコモンズ投信の運用方針に基づき決定されております）

■投資環境および運用経過について（コモンズ30マザーファンド）

◎市況（外部環境）と期中の投資行動について
（2025年1月～3月）

2025年1月～3月期の内外金融市場は、トランプ大統領就任後の一挙手一投足に注目が集まりました。就任当初は、AI投資期待などもあり株式市場は歓迎ムードでしたが、その後の関税強化策や米国経済のスタグフレーション（経済成長が停滞しているのに、物価が上がり続ける状態）懸念などから調整色を強める展開となりました。国内株式市場も、日経平均株価で4万円を超える場面もありましたが、米国株式市場に連動する形で下げ足を速めました。東証33業種別の騰落率では、ゴム製品、その他製品、銀行業が上位となり、サービス業、輸送用機器、精密機器が下位となりました。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込みが▲3.44%、日経平均株価が▲10.72%の下落となる中、コモンズ30マザーファンドも▲3.18%の下落となりました。同期間、騰落率上位3銘柄は、LITALICO（+24.13%）、エムスリー（+21.83%）、KADOKAWA（+13.04%）となりました。一方で、騰落率下位3銘柄は、ディスコ（▲30.04%）、信越化学工業（▲20.02%）、東京エレクトロン（▲16.85%）でした。当四半期に組入銘柄の3社が上場来高値を更新しました。

同四半期で、日揮HDを全売却しましたので組入れ銘柄数は、一社減って28社となりました。株式組入比率は、トランプ関税など不透明要因が大きかったため95.4%（▲2.3%）と前四半期末対比では少

し現金比率を高めました。

さて、同四半期の企業との対話では、丸紅、味の素の統合報告書ワークショップを開催しました。両社ともに素晴らしい統合報告書を作成されていますが、どこをポイントに作成されたのか、工夫した点はどこかなど丁寧な説明をいただき、参加していただいた皆さんと活発な議論を行うことが出来ました。また、会社訪問では「こどもトラストセミナー」として神戸のシスメックスにこどもたちと一緒に伺いました。大人もこどもも手術用ロボットの体験を行うなど大変盛り上がりました。

(2025年4月～6月)

2025年4月～6月期の内外金融市場は、4月の「解放の日」に市場参加者の想定を上回る米国の関税強化策が打ち出されてショック安となりましたが、株式・債券・ドルのトリプル安を受けたことにより相互関税の上乗せ部分について90日間の延期が打ち出されたことで回復に向かいました。中東情勢の緊迫化で警戒ムードが高まる局面もありましたが、米国の利下げ前倒し観測やAI、半導体関連株の好調さが戻ってきたことで、欧米の主要株価指数は史上最高値を更新しました。国内株式市場も、こうした背景から4万円の台を越える戻り相場となりました。東証33業種別の騰落率では、倉庫運輸、その他製品、非鉄金属が上位となり、石油石炭、鉄鋼、鉱業が下位となりました。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込みが+7.52%、日経平均株価が+13.67%の上昇となる中、コモンズ30マザーファンドは+9.19%の上昇となりました。同期間、騰落率上位3銘柄は、ディスコ（+42.60%）、東京エレクトロン（+37.64%）、任天堂（+37.29%）となりました。一方で、騰落率下位3銘柄は、ユニ・チャーム（▲12.53%）、クボタ（▲11.41%）、シスメックス（▲11.39%）でした。当四半期に組入銘柄の2社が上場来高値を更新しました。

同四半期は、4月の株価急落局面で、アシックスとファーストリテイリングの新規2銘柄の組入れを開始しました。組入銘柄数は、全30銘柄となりました。新規組入れ銘柄を追加する一方で、全体的には関税の影響や中東情勢の不透明感から保守的なスタンスを維持し、株式組入比率は、92.7%（▲2.7%）と前四半期末対比で現金比率を高めています。

さて、同四半期の企業との対話では、5月に16周年イベント「COMMONS MEETS 2025 ～インパクト：みんなで創る未来～」を開催しました。当ファンドの投資先からは味の素、他ファンドの投資先からはユカリア、ウェザーニューズ・住友林業・UACJも参加。また、コモンズSEEDCap応援先のアクセプト・インターナショナルにも参加いただき、お客様との熱い交流が図れました。

(2025年7月～9月)

2025年7月～9月期の内外金融市場は、世界的な株高となりました。米国、日本、英国、韓国、台湾などで過去最高値を更新しました。米国相互関税の進展や米国での利下げ期待の高まりなどが背景でした。日経平均株価も4万5千円台の台に乗せました。東証33業種別の騰落率では、非鉄金属、鉱業、石油石炭が上位となり、その他製品、海運業、小売業が下位となりました。当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込みが+11.04%、日経平均株価が+10.98%の上昇となる中、コモンズ30マザーファンドは+4.09%の上昇となりました。同期間、騰落率上位3銘柄は、丸紅（+26.95%）、日東電工（+25.99%）、三菱商事（+22.26%）となりました。一方で、騰落率下位3銘柄は、シスメックス（▲27.43%）、セブン&アイ・HD（▲14.29%）、SMC（▲12.70%）でした。当四半期に組入銘

柄の7社が上場来高値を更新しました。同四半期は、組入れ銘柄30社に変更はありませんでした。株式組入比率は、95.9% (+3.2%) と前四半期末対比で株式組入比率を高めています。そして、同四半期の企業との対話では、8月にセブン&アイ・HDの伊藤研修センターにて、こどもトラストセミナーを開催しました。2018年からコロナ禍を挟んで今回で6回目となります。講義をいただいた後、商品陳列体験、レジ打ち体験、お寿司づくり体験を行いました。こどもたちも制服に着替えて、店員さん目線で同社の理解を深めることが出来ました。また、9月には、世界をリードする建設機械、産業機械のコマツをお招きしてのコモンズ30塾を開催しました。テーマは、「コマツと語る価値創造 ～変革の中期経営計画とその先の未来～」です。2021年に100周年を迎えた同社の更なる進化を皆さんと確認することが出来ました。

(2025年10月～12月)

2025年10月～12月期の内外金融市場は、世界的な株高となりました。米国の利下げを背景にAI関連株が賑わうなどで米国、日本、英国などで史上最高値を更新しました。国内では高市政権の誕生も市場から好感され、日経平均株価も5万円の大台を突破し、TOPIX（東証株価指数）とともに史上最高値を記録しました。東証33業種別の騰落率では、非鉄金属、建設業、石油石炭が上位となり、その他製品、情報通信、空運業が下位となりました。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込みが+8.82%の上昇、日経平均株価が+12.03%の上昇となる中、コモンズ30マザーファンドは+4.36%の上昇となりました。同期間、騰落率上位3銘柄は、東京エレクトロン(+30.20%)、堀場製作所(+27.27%)、ファーストリテイリング(+26.42%)となりました。一方で、騰落率下位3銘柄は、味の素(▲21.88%)、任天堂(▲17.26%)、シスメックス(▲15.46%)でした。当四半期に組入銘柄の8社が上場来高値を更新しました。

同四半期は、組入れ銘柄30社に変更はありませんでした。株式組入比率は、98.2% (+2.3%) と前四半期末対比で株式組み入れ比率を高めています。

そして、同四半期の企業との対話では、11月に投資先企業の方々をお招きして「コモンズ企業価値研究会」を開催しました。企業価値研究会とは、投資先企業をお招きし、企業の非財務的な「見えない価値」の向上あるいは可視化の取り組みについて学び、意見交換を行う場です。参加者は、IR、CSR、経営企画、人事の部署など多岐にわたり、企業価値の可視化に取り組まれている皆さまです。今回のテーマは、「Beyond ESG～インパクト投資の潮流～」でした。各社の取り組みを共有する貴重な機会となりました。

■運用経過について（コモンズ30+しずぎんファンド）

◎コモンズ30+しずぎんファンドの投資行動について

当ファンドは、コモンズ30マザーファンドに投資する他、しずおかフィナンシャルグループ株式に直接投資しております。当期間中のしずおかフィナンシャルグループ株式は、前期末1,302円、高値2,446円（2025年12月15日）、安値1,260円（2024年12月20日）、今期末2,390円で推移しました。

また、期中の組入比率は、最大9.2%、最小7.6%となりました。

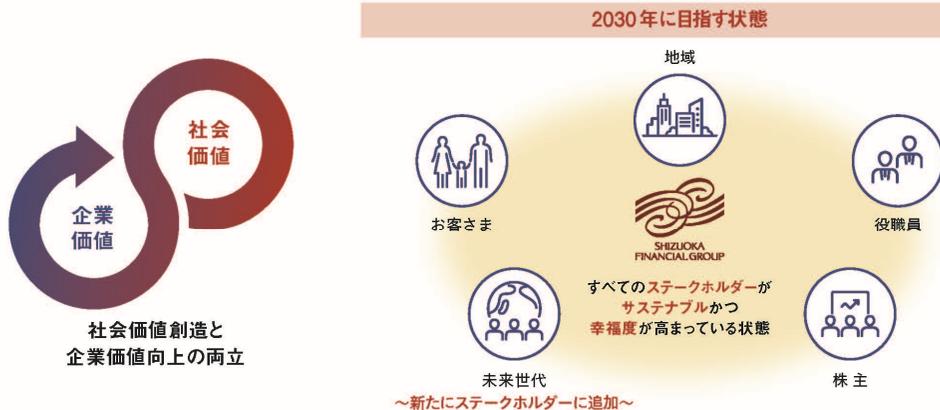
◎投資先企業

コモンズ30+しずぎんファンドの直接投資先であるしずおかフィナンシャルグループ（5831）株式について

しずおかフィナンシャルグループ：2021年11月の銀行法改正により新設された制度である「認定銀行持株会社」として設立。静岡銀行の基本理念「地域とともに夢と豊かさを広げます。」を引き継ぎ、ステークホルダーのウェルビーイングの向上とともに地域の総合金融グループとして発展していくため、社会価値の創造と企業価値の向上を両立する経営を実践するとともに、健全性と先進性、成長性を兼ね備えたバランスのとれた事業運営に取り組んでいる。

2027年度までの第1次中期経営計画では、企業価値向上に向けて、足元の利益成長の実現と社会インパクト創出に向けた中長期目線での戦略を両輪で展開。

第1次中期経営計画【期間2023～2027年度】



（しずおかフィナンシャルグループ統合報告書2025より抜粋）

コモンズ30マザーファンドの当期末における投資先は以下の30社です（証券コード順）。各企業の特長について、簡単にご紹介します。

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
エムスリー (2413)	「インターネットを活用し、健康で楽しく長生きする人を一人でも増やし、 unnecessaryな医療コストを一元でも減らす事」を事業目的に、医療従事者向け情報サイトで製薬会社の情報提供を支援。「医療で変革を起こし続ける」をモットーに、医師のキャリア支援など医療周辺での事業領域を拡大し、成長を加速させています。
味の素 (2802)	日本の昆布だしから抽出した「うま味」を発見、世界の食文化に合わせた、調味料や加工・冷凍食品、飲料などを提供しています。2050年の世界人口90億人時代を見据え、東南アジア、中南米、アフリカなどで販売ネットワークを構築し、「食と健康の課題解決企業」としての認知を広め、コーポレートブランド価値向上を目指します。
セブン&アイ・ホールディングス (3382)	1974年に国内7-Eleven第1号店開店。変化への対応、基本の徹底という企業文化が浸透しており、7-Elevenの卓越したマーケティング戦略、北米など海外戦略でさらなる高みを目指しています。
旭化成 (3407)	化学繊維事業からエレクトロニクス事業、さらにはヘルスケア事業や水素関連、CO2分離・回収などの環境ソリューション事業へと事業構成を柔軟に変化させることにより、収益性の向上を目指しています。同社名誉フェローの吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞したように先進的な開発に取り組む文化を持っています。
信越化学工業 (4063)	収益に対する執着心が強く、強いポジションを築いています。塩化ビニル樹脂などの汎用品と、半導体シリコンウエハなどの先端テクノロジーの双方で高いシェアを獲得しています。
エーザイ (4523)	世界的に競争力のある創薬メーカーです。企業理念の定款への記載や、役員選任理由を明確にした100ページを大幅に上回る株主総会招集通知の作成などガバナンスの基本観がとてもしっかりしています。
楽天グループ (4755)	社内公用語の英語化、携帯電話事業への展開など、成長に向けた強い意欲が際立ちます。社員による店舗サポートが強みで、理念の共有、教育等の人的資産投資を積極的に行っています。
資生堂 (4911)	巨大市場の中国、アジアで認められた美の感性、アジア人の肌を知り尽くした技術、おもてなしの心（接客力）を成長の牽引力とし、世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニーを目指します。
リンナイ (5947)	給湯器、コンロなどガス器具のトップメーカーです。製品デザインの刷新、製販一体の全員経営、経営の見える化などの経営革新の成果が現れています。創業期より海外展開を行っており、米国、中国を始め、インドネシア、ブラジル、オーストラリアなどでも強いブランドを築いています。
ディスコ (6146)	半導体や電子部品の製造に欠かせないグラインダーやダイサーなどを製造しています。「誰が正しいかではなく、何が正しいか」などディスコバリューズで、自社の経営体制も磨き続けています。
SMC (6273)	工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップです。強固な販売力を有し、自動車、電機、機械向けから、医療および食品関連にも自動化の需要が広がっています。省エネ製品、非空圧機器の拡販による更なるシェアアップに取り組んでいます。

コモンズ30+しずぎんファンド

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
コマツ (6301)	建設機械市場におけるグローバル競争力はキャタピラーに匹敵。アフターサービスによるストックビジネスモデルを確立。近年は様々な動力源（バッテリー、水素、バイオ、ハイブリッド等）の製品開発を進め、全方位戦略によるカーボンニュートラルを推進しています。
クボタ (6326)	長期的に世界の食糧需要が増加するなか、世界の競合企業に比べて、水田用、中小型の農機で高い競争力を持っています。今後は、インドでの成長が期待されます。米国市場における小型建機での存在感も高まっています。
ダイキン工業 (6367)	世界に誇る日本の省エネ技術、強い販売力、優れた商品力が競争力の源泉であり、アフターケアとメンテナンスを絡めた総合力も抜群です。
日立製作所 (6501)	マネジメントの強力なリーダーシップで進められている構造改革により、組織は強靱化し収益力も強化。「インフラとITをつないで、社会課題を解決する」をモットーに、グローバルでの展開を加速。ITプラットフォーム「Lumada」を事業推進のコアに据えて更なる成長を目指します。
マキタ (6586)	電動工具ではリチウムイオン電池を使った製品や、軽量・低振動で使用者の健康に配慮をした製品を投入し、利用時間が長いプロ向けで高いシェアを獲得しています。ものづくりだけでなく、保守メンテナンス体制も充実しており、先進国では原則3日に対応可能な修理体制を構築しています。
堀場製作所 (6856)	創業者経営哲学「おもしろおかしく」を継承し、国際展開、自動車用から科学（研究）用、半導体用、現在の医療用まで、時代に応じて事業分野を拡大中です。ニッチ市場で高いシェアを誇り、事業分散と地域分散を組み合わせたマトリックス経営が持ち味。買収・提携も巧みです。
シスメックス (6869)	血液検査機器では、国内No.1、世界トップ10クラス、特に血球計数分野では世界No.1の実力を誇ります。更に、赤血球分析から免疫、DNAへ、大学、研究機関、病院を顧客に急発展し、サステナブル企業として成長を続けています。
デンソー (6902)	1949年にトヨタ自動車から分離独立し「日本電装」として創業。自動車市場の拡大や自動車の電動化およびモジュール化（複数の機能をまとめた部品にすること）などが追い風となります。今後の成長が期待される自動運転では、ソフトウェア開発に注力するとともに、技術力を武器に強みを発揮していく見込みです。
日東電工 (6988)	成長が期待される環境や医療向けなどに事業領域を柔軟に変化させながら、固有の技術をベースに、シートやフィルムに付加価値を加えた製品で成長しています。それぞれの地域ごとに品質や価格を調整し、シェアの獲得を目指しています。
ホンダ (7267)	二輪や車のみならず、夢の詰まったモビリティ（移動体）への開発意欲が旺盛です。歴史的に難局に強く、創業から脈々と流れるチャレンジ精神で、持続可能な成長を遂げています。
LITALICO (7366)	「障害は人ではなく、社会の側にある」という考えのもと、人々の多様な生き方を実現するためのサービスとして障害者の就労支援や、児童発達支援の施設を全国に展開。明確なビジョンとバランスのとれたマネジメントチームに加え、「利他」と「利己」を同時に実現することを目指す考え方に強く共感する社員の存在が大きな強みです。

コモンズ30+しずぎんファンド

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
アシックス (7936)	主力のランニングシューズはグローバル市場で高い競争力があり、海外売上高比率は8割超。傘下にはラグジュアリーブランドとしてグローバルに評価を高める「オニツカタイガー」も有し、「誰もががー生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現」というVISION2030に向け、ブランド体験価値の向上に取り組んでいます。
任天堂 (7974)	創業は1889年。どなたにでも直感的に楽しんでいただける「任天堂独自の遊び」を提供することを目指しています。独自の娯楽体験を実現するために、ハード・ソフト一体型のゲーム専用機ビジネスを経営の中核に置いています。
丸紅 (8002)	人財を価値の源泉として重視しています。事業面では、バリューチェーンを構築し、景気の影響を受けにくいトレーディングなど、安定した収益体制を確立しています。特に、農業や食料、電力などの事業領域に強みを持っています。
東京エレクトロン (8035)	「医療や環境、新しい産業の未来を考えると半導体チップの将来は無限」との発想で、商社から出発、今や世界トップの半導体製造装置メーカーであるアプライドマテリアルズの背中まで迫る勢いです。経営はクレドの心温まるメッセージでけん引。愚直で本質的な挑戦を続けています。
三菱商事 (8058)	企業理念の「三綱領」をベースに、長期持続的成長を意識した経営を志向しています。事業に投資するだけでなく、事業の中に入り、三菱商事の強みや機能を提供することで投資先の成長に貢献する「事業経営」を目指します。
ユニ・チャーム (8113)	これまで培ってきたマーケティング力を生かし、国や地域によって、ベビーケア、フェミニンケア、大人用紙おむつなどのウェルネスケア、ペットケアなどのバランスを少しずつ変えながら、グローバル全体では安定した成長を実現しています。経営の仕組み化や、他社から学び継続的改善をおこなっていることは、強みの一つです。
KADOKAWA (9468)	1945年創業。企業スピリットは、変化を恐れずに挑戦し続ける心。文芸出版社の時代、文庫と映画のメディアミックスの時代、雑誌の時代などで存在感を發揮。2014年にドワンゴと経営統合、「ニコニコ動画」などドワンゴのプラットフォームとKADOKAWAのコンテンツを融合、デジタルコンテンツ・プラットフォームとして、中長期的な成長を目指します。
ファーストリテイリング (9983)	1963年設立。企業理念は、「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」。ユニクロ、ジーユーなどのブランドを世界中で展開しています。中核事業のユニクロは、LifeWear（究極の普段着）のコンセプトのもと、高品質な素材や機能性素材を使った独自の商品を、手に取りやすい価格で販売。ジーユー事業については、ファッションと低価格を強みとしています。

■ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

分配金について

第11期の分配金は0円とさせていただきます。なお、分配については、毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。また、留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

	当 期
	2024年12月19日～2025年12月18日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	15,568

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税引前）と一致しない場合があります。

(注) －表示は該当がないことを示します。

今後の運用方針

<コモンズ30+しずぎんファンド>

第12期（2025年12月19日～2026年12月18日）についても、これまで同様の運用方針を継続いたします。

- ・「コモンズ30マザーファンド」に、当ファンドの純資産総額の概ね90%程度の投資比率で資産配分することを基本とします。
- ・しずおかフィナンシャルグループの株式に当ファンドの純資産総額で10%を上限に高位に組入を行うことを基本とします。

<コモンズ30マザーファンド>

2025年は、米国において関税政策の導入など、これまでの経済フレームワークを大きく転換する動きが見られた年でした。背景には、物価上昇に対する国民の不満の高まりや、長年続いたグローバル化の恩恵が一部の産業に偏ったとの見方から、既存の経済政策に対する不信感が広がったことがあると考えられます。

歴史的な潮目の変化として、AI革命とも呼ばれる技術革新が急速に進展し、産業構造そのものが変わりつつあります。生成AIの普及は業務効率化や新規サービス創出を促し、企業は競争力維持のために積極的な投資と事業再構築を迫られています。さらに、経済安全保障の観点からグローバル・サプライチェーンの見直しが進んでいます。

一方、国内に目を向けると、日銀の利上げや賃上げの定着により「金利のある世界」が戻り、長らく続いたデフレ環境からの転換が本格化しています。これに伴い、企業は資本コストを意識した経営への移行が求められ、加えて高市政権の誕生で積極的な投資主導型の経済構造への転換も急務となっています。

さて、当ファンドは、こうした外部環境の変化に強く、持続的な成長が可能な企業に対して厳選した集中投資を行います。環境変化は企業経営に大きな影響を与える一方で、投資先企業にとっては、より強靱で効率的な企業体質へと進化する好機でもあります。当ファンドが組み入れる企業は、まさにその変革を実現し得ると確信している企業群です。

引き続き、当ファンドは運用方針に基づき、外部環境の大きな変化にも揺るがず、持続的な成長が期待できる企業に厳選投資を行ってまいります。今年度も丹念な調査・分析と企業との積極的な対話を重ね、長期的な資産形成に貢献してまいります。

どうぞ、ご期待ください。

● 1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	2024年12月19日~2025年12月18日		
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	294円	1.265%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は23,255円です。
（投 信 会 社）	(141)	(0.605)	委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	(141)	(0.605)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(13)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.051	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(12)	(0.051)	
(c) そ の 他 費 用	26	0.110	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監 査 費 用 等）	(26)	(0.110)	・ 監査費用等は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用およびその他費用
（そ の 他）	(-)	(-)	・ その他は、金銭信託に係る手数料
合 計	332	1.426	

(注) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

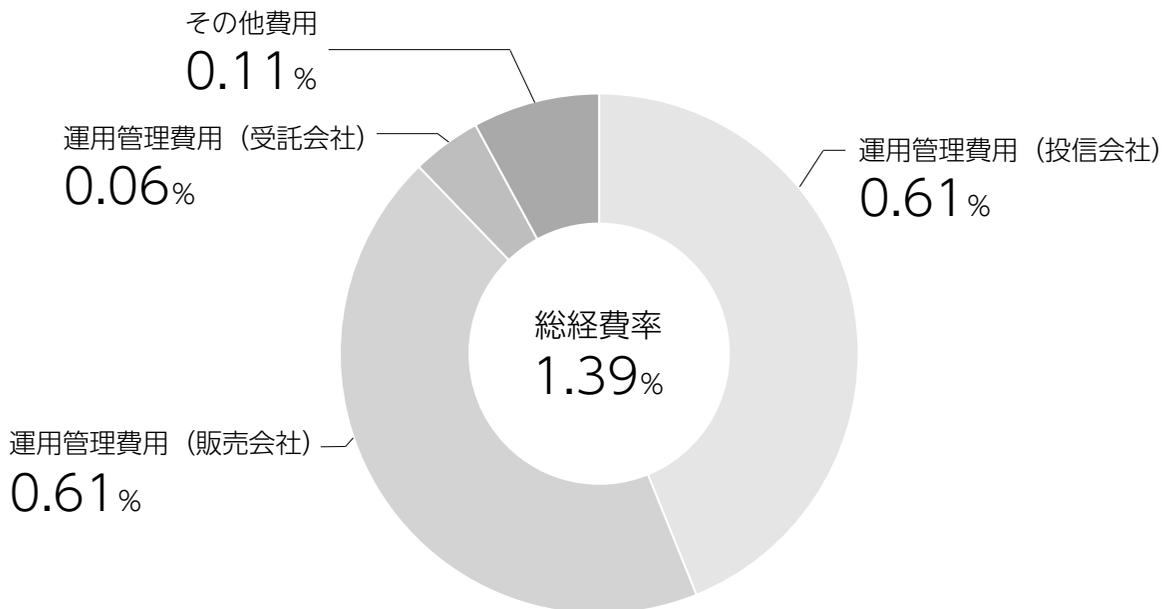
(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.39%です。



(注) 上記の各比率は簡便法で算出しておりますので、実際に発生した費用の比率と異なる場合があります。

●**売買および取引の状況** (2024年12月19日～2025年12月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
コモンズ30マザーファンド	千口 15,334	千円 102,360	千口 29,133	千円 208,112

(注) 単位未満は切捨て。

●**株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合** (2024年12月19日～2025年12月18日)

項 目	当 期
	コモンズ30+しずぎんファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	93,529千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	146,036千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.64

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

項 目	当 期
	コモンズ30マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	55,521,353千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	77,992,789千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.71

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●**主要な売買銘柄** (2024年12月19日～2025年12月18日)

コモンズ30マザーファンドにおける株式の主な売買

買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
ファーストリテイリング	66.1	3,059,869	46,291	日立製作所	399.6	1,689,097	4,226
アシックス	662.2	2,313,749	3,494	ディスコ	35.8	1,517,452	42,386
シスメックス	829.3	1,783,838	2,151	東京エレクトロン	58.4	1,511,171	25,876
ユニ・チャーム	1,346.5	1,563,316	1,161	味の素	355.5	1,467,705	4,128
ディスコ	39.5	1,561,387	39,528	三菱商事	474.9	1,454,195	3,062
KADOKAWA	445.2	1,525,393	3,426	任天堂	118.1	1,417,621	12,003
信越化学工業	312.4	1,403,996	4,494	KADOKAWA	300.4	1,101,078	3,665
SMC	27.3	1,401,066	51,321	エムスリー	564.1	1,076,079	1,907
東京エレクトロン	55	1,265,087	23,001	SMC	20	1,062,995	53,149
任天堂	100.8	1,163,492	11,542	日東電工	339.9	1,059,822	3,118

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●利害関係人との取引状況等 (2024年12月19日～2025年12月18日)

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細

国内株式 (上場株式)

2025年12月18日現在

銘 柄		期首(前期末)	当 期	末
		株 数	株 数	評 価 額
銀行業(100.0%) しずおかフィナンシャルグループ		千株	千株	千円
		113.2	60.9	145,551
合 計	株 数 ・ 金 額	113	60	145,551
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	<8.1%>

(注) 銘柄欄の () 内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の < > 内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

親投資信託残高

	期首(前期末)	当 期	末
	□ 数	□ 数	評 価 額
コモンズ30マザーファンド	千□	千□	千円
	235,739	221,940	1,627,467

(注) □数・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 当期末におけるコモンズ30マザーファンド全体の口数は12,190,798千口です。

●投資信託財産の構成

2025年12月18日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
株 式	千円 145,551	% 8.0
コモンズ30マザーファンド	1,627,467	90.0
コール・ローン等、その他	35,864	2.0
投資信託財産総額	1,808,882	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年12月18日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,808,882,506円
コー ル ・ ロ ー ン 等	35,863,963
株 式(評価額)	145,551,000
コモンズ30マザーファンド(評価額)	1,627,467,543
(B) 負 債	17,579,394
未 払 解 約 金	4,933,364
未 払 信 託 報 酬	11,634,431
そ の 他 未 払 費 用	1,011,599
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	1,791,303,112
元 本	700,580,369
次 期 繰 越 損 益 金	1,090,722,743
(D) 受 益 権 総 口 数	700,580,369口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	25,569円

●損益の状況

(2024年12月19日～2025年12月18日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	5,826,129円
受 取 配 当 金	5,826,129
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	258,377,798
売 買 損 益	296,916,708
売 買 損 益	△ 38,538,910
(C) 信 託 報 酬 等	△ 24,157,254
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	240,046,673
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	281,358,855
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	569,317,215
(配 当 等 相 当 額)	(437,368,107)
(売 買 損 益 相 当 額)	(131,949,108)
(G) 計 (D + E + F)	1,090,722,743
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	1,090,722,743
追 加 信 託 差 損 益 金	569,317,215
(配 当 等 相 当 額)	(437,665,837)
(売 買 損 益 相 当 額)	(131,651,378)
分 配 準 備 積 立 金	521,405,528

(注) 期首元本額 767,601,582円
 期中追加設定元本額 118,170,849円
 期中一部解約元本額 185,192,062円

(注) 損益の状況の中で**(B)有価証券売買損益**は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で**(C)信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で**(F)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (32,210,667円)、費用控除後の有価証券等損益額 (207,836,006円)、信託約款に規定する収益調整金 (569,317,215円) および分配準備積立金 (281,358,855円) より分配対象収益は1,090,722,743円 (10,000口当たり15,568円) ですが、当期に分配した金額はありません。

【お知らせ】

※本運用報告書作成時点においては、当期間に係る当ファンドの監査は終了していません。

コモンズ30マザーファンド

<第16期>：2025年1月20日

計算期間：2024年1月19日～2025年1月20日

「コモンズ30マザーファンド」は、第16期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第16期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	<p>①主として、国内外の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、投資対象選定の基準に照らして優良と判断した企業に投資します。</p> <p>②ベンチマークは設けず30銘柄程度に厳選投資を行い、原則として短期的な銘柄入れ替えは行わず長期保有することを基本とします。</p> <p>③株式の組入比率は、市場環境に応じて、投資信託財産総額の30%以上を基本とします。</p> <p>④市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主要運用対象	国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	<ul style="list-style-type: none">・株式への投資割合には、制限を設けません。・投資信託証券（上場投資信託証券等を除きます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。・一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとします。

●最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率	株式組入比率	純資産総額
	円	%	%	百万円
12期(2021年1月18日)	44,093	17.9	92.3	40,859
13期(2022年1月18日)	49,527	12.3	96.1	47,929
14期(2023年1月18日)	48,167	△ 2.7	98.8	51,226
15期(2024年1月18日)	63,885	32.6	95.0	72,932
16期(2025年1月20日)	63,902	0.0	98.2	76,072

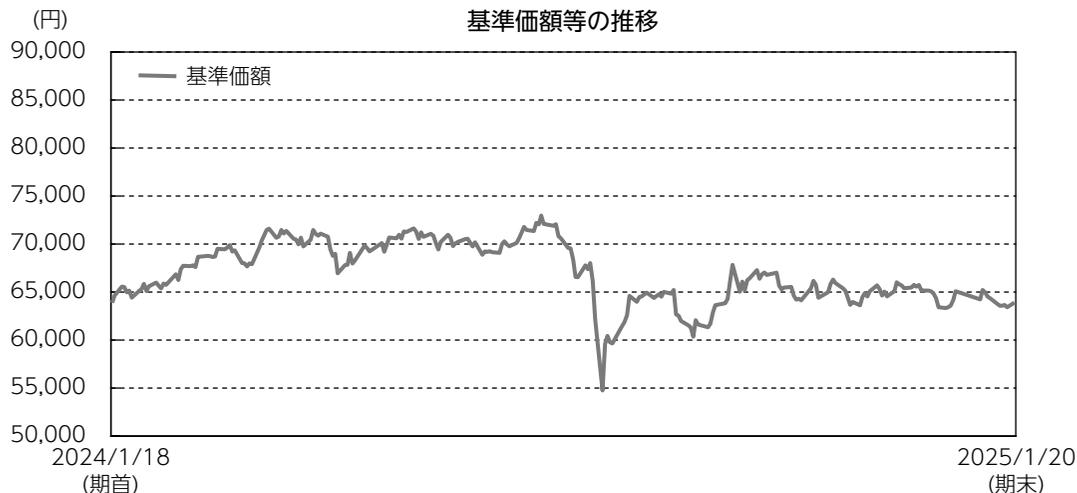
(注) 当ファンドは、特定の市場指数を上回る投資成果を目指すものではなく、個別の投資銘柄の特性を重視した運用を行うため、ベンチマークは設定しておりません。また、既存の株価指数等の参考指数は、当ファンドのポートフォリオの銘柄構成や運用戦略と大きく異なるため、これらと比較表示することにより、投資家の皆様に当ファンドの運用実態について誤解を与える恐れがあることから、併記を控えております。

●当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	株式組入比率
(期首)	円	%	%
2024年1月18日	63,885	—	95.0
1月末	65,853	3.1	94.5
2月末	68,704	7.5	95.3
3月末	71,364	11.7	93.6
4月末	69,837	9.3	94.9
5月末	70,222	9.9	95.2
6月末	69,773	9.2	97.3
7月末	68,023	6.5	97.1
8月末	65,015	1.8	95.1
9月末	65,034	1.8	97.9
10月末	65,762	2.9	96.7
11月末	64,557	1.1	96.9
12月末	64,832	1.5	97.7
(期末)			
2025年1月20日	63,902	0.0	98.2

(注) 騰落率は期首比です。

●当期の運用経過



(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

●1万口当たりの費用明細

項 目	当 期 2024年1月19日～2025年1月20日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	67,414円		期中の平均基準価額です。
(a) 売買委託手数料 (株 式)	37円 (37)	0.056% (0.056)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) その他費用 (そ の 他)	1 (1)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・金銭信託に係る手数料等
合 計	38	0.057	

(注) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

●**売買および取引の状況** (2024年1月19日～2025年1月20日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上 場	千株	千円	千株	千円
		12,032 (4,407)	33,493,299 (-)	7,547	26,424,047

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

●**株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合** (2024年1月19日～2025年1月20日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	59,917,347千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	76,657,871千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.78

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●**主要な売買銘柄** (2024年1月19日～2025年1月20日)

買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
旭化成	2,019.7	2,104,575	1,042	ディスコ	54.2	2,662,032	49,114
ユニ・チャーム	552.5	1,908,214	3,453	日立製作所	347.4	1,708,256	4,917
シスメックス	500.3	1,694,455	3,386	ベネッセホールディングス	650	1,690,000	2,600
エムスリー	1,006.7	1,689,655	1,678	東京エレクトロン	43.4	1,327,299	30,582
KADOKAWA	528	1,554,993	2,945	SMC	17.4	1,235,259	70,991
楽天グループ	1,874.5	1,531,030	816	シスメックス	393.7	1,182,572	3,003
東京エレクトロン	53	1,468,975	27,716	日揮ホールディングス	810.2	1,104,642	1,363
SMC	19.1	1,462,262	76,558	味の素	160	976,751	6,104
ディスコ	31.9	1,382,983	43,353	マキタ	198.9	902,891	4,539
クボタ	637.5	1,339,317	2,100	デンソー	367.4	895,137	2,436

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●**利害関係人との取引状況等** (2024年1月19日～2025年1月20日)

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細 (2025年1月20日現在)
国内株式 (上場株式)

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	評価額
	千株	千株	千円
建設業(0.7%)			
日揮ホールディングス	977.1	388	520,308
食料品(5.1%)			
味の素	578.9	624.6	3,845,662
化学(16.2%)			
旭化成	1,403	3,224.2	3,343,495
信越化学工業	499	577.2	2,978,929
資生堂	212.5	231.1	596,238
日東電工	154.8	827.5	2,211,080
ユニ・チャーム	505.6	2,410.8	2,954,435
医薬品(2.4%)			
エーザイ	279.6	423	1,787,598
金属製品(3.8%)			
リンナイ	656.1	852.3	2,819,408
機械(20.6%)			
ディスコ	94.9	72.6	3,195,852
SMC	30.5	32.2	1,913,324
小松製作所	640.8	691.2	3,018,470
クボタ	1,044.6	1,382.5	2,555,551
ダイキン工業	98.3	112.8	2,112,744
マキタ	537.6	573	2,620,902
電気機器(16.5%)			
日立製作所	241.3	939.9	3,570,680
堀場製作所	206	245.6	2,262,467
シスメックス	290.3	1,089.9	3,192,862
東京エレクトロン	113	122.6	3,267,290

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	評価額
	千株	千株	千円
輸送用機器(6.1%)			
デンソー	1,088.2	1,171.7	2,495,135
本田技研工業	1,450.9	1,411.1	2,091,250
その他製品(4.6%)			
任天堂	313.4	384.3	3,420,654
陸運業(-%)			
ヤマトホールディングス	437	-	-
情報・通信業(4.8%)			
KADOKAWA	815.1	1,124.9	3,569,307
卸売業(7.3%)			
丸紅	1,084.6	1,037	2,347,249
三菱商事	1,186.5	1,251.2	3,102,976
小売業(4.8%)			
セブン&アイ・ホールディングス	384.4	1,470.5	3,604,930
サービス業(7.1%)			
エムスリー	852.9	1,343.2	1,869,062
楽天グループ	1,425.5	2,699.1	2,433,238
LITALICO	767.3	1,198.1	1,015,988
ベネッセホールディングス	650	-	-
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	19,019 31	27,912 29 <98.2%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

●投資信託財産の構成

2025年1月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 74,717,091	% 98.1
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,465,772	1.9
投 資 信 託 財 産 総 額	76,182,863	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年1月20日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	76,182,863,810円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,126,924,397
株 式(評価額)	74,717,091,450
未 収 入 金	240,563,963
未 収 配 当 金	98,284,000
(B) 負 債	110,128,605
未 払 金	59,947,620
未 払 解 約 金	50,180,985
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	76,072,735,205
元 本	11,904,613,478
次 期 繰 越 損 益 金	64,168,121,727
(D) 受 益 権 総 口 数	11,904,613,478口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C / D)	63,902円

(注) 期首元本額 11,416,203,085円
 期中追加設定元本額 2,875,018,152円
 期中一部解約元本額 2,386,607,759円
 (注) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。
 コモンズ30ファンド 9,907,517,592円
 コモンズ30ファンドⅡ-B (適格機関投資家用) 1,762,830,007円
 コモンズ30+しずぎんファンド 234,265,879円

●損益の状況

(2024年1月19日~2025年1月20日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,471,670,093円
受 取 配 当 金	1,471,668,800
受 取 利 息	66
そ の 他 収 益 金	1,227
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 1,672,578,683
売 買 益	6,869,330,904
売 買 損	△ 8,541,909,587
(C) そ の 他 費 用 等	△ 800,889
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	△ 201,709,479
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	61,516,149,531
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	16,322,194,407
(G) 解 約 差 損 益 金	△ 13,468,512,732
(H) 計 (D + E + F + G)	64,168,121,727
次 期 繰 越 損 益 金(H)	64,168,121,727

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)その他費用等にはその他費用等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。